

国語教育相談室

中学校
no.
77

光村図書



書写

一生ものの、書く力。

平成二十八年度版
『中学書写』のご紹介

特集

つむぐつ、きみの物語を。

平成二十八年度版
『国語』のご紹介

光村図書ウェブサイトが、全面リニューアルしました！



- デザインを一新して、お探しの資料にアクセスしやすいよう、情報を整理。
- 楽しい読み物を集めた「みつむら web magazine」を新設。
作家の森絵都さん、翻訳家の金原瑞人さんなど、豪華執筆陣による読みごたえのある連載がスタート。
- 会員専用「光村コミュニティ」では、指導案や「国語教育相談室」のバックナンバーを多数掲載。

新しくなった光村図書ウェブサイト、ぜひご覧ください。

➔ www.mitsumura-tosho.co.jp



光村図書

中学校 国語教育相談室 通巻No.165 2015(平成27)年4月17日発行
発行人=常田 寛 発行所=光村図書出版株式会社 東京都品川区上大崎 2-19-9 〒141-8675 電話 03-3493-2111
www.mitsumura-tosho.co.jp E-mail:koho@mitsumura-tosho.co.jp 印刷所=株式会社 加藤文明社 デザイン=mg-okada

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。
詳しくは、光村図書ウェブサイトをご覧ください。 www.mitsumura-tosho.co.jp 広報誌の配送停止をご希望の方は、光村図書出版までご連絡ください。

行けたら行く

早稲田大学教授
森山卓郎

ある春の朝、こんな会話を耳にした。

A 「明日、〇〇〇があるのだけど、来ない?」

B 「うん、行けたら行くね。」

ふと思った。——「行けたら行く」って、どういこと? 何か変だ……

だって、「行けなかったら、当然行かない」わけだ。「行けたら行く」というのは、当然と言えば当然じゃない。しかし、よく考えてみると、この表現にはちゃんと深い意味がある。「行けたら」というのは仮定の表現。仮定として、「行けない」場合が想定されている。つまり、「行く」意志はあるけれども、それはあくまで「行ける」場合のこと。意志はともかく、「行けない」ことも十分あり得る、という返事なのだ。「行けない可能性」はさりげなく、しかし、しっかりと表現され

ている。あくまで、表面上の文末は「行く」。「行きたい」気持ちもそれなりに伝わる。ただ、やっぱりその意味は曖昧である。

では、その意味はどう解釈されるのか。大学生五八人(うち女性四〇人)に、「明後日の、徒歩一〇分ほどの場所での、自分が企画に少し関わっている午後六時からの無料のコンサートに誘った」として、「親しい友達」の返事による「行く」期待度(%)を聞いてみた。まず、「行く」という返事なら平均で九〇%の期待度(中央値九五%)。「行くと思う」なら七一%(同八〇%)。一方、「行けたら行く」の期待度はなんと三三%(同三〇%)だった。「行けたら行く」という返事は曖昧ながら、実は可能性がかなり低いと解釈されているようだ。

ついでに、「行くと思うけどわからない」、「わからないけど行くと思う」という順序の違う表現での解釈についても調べてみた。前者は四五%(中央値五〇%)、後者は六三%(同七〇%)の期待度だった。内容は同じでも結構差がある。最初の「わからないけど」はいわば注釈的に解釈されるのに対し、あとの「わからない」はおそらく結論的に解釈され、期待度が下がるのだから。表現の順序は意外に大切だ。

よく日本語は曖昧だと言われる。確かにそう。が、全く曖昧というわけでもない。表現によって、それなりの「解釈のされよう」というものがある。ま、わかるときはわかるというのが日本語のおもしろいところ——そう考えられるのなら、そう考えておこう。

CONTENTS

探検! 言葉の森 26 行けたら行く ————— 森山卓郎

巻頭エッセイ 言葉と向き合う 02 書かれた言葉をちゃんと「読む」 ————— 関川夏央

特集 04 つむごう, きみの物語を。

平成28年度版『国語』のご紹介

対談「問う」ということ ————— 最相葉月・甲斐利恵子

14 新版教科書クローズアップ ————— 阿部 昇

24 作者・筆者からのメッセージ

中学校という場所 ————— 瀬尾まいこ

宇宙と国語が会おうとき ————— 山中 勉

〈代理〉と〈代替〉 ————— 鷲田清一

28 平成28年度版 デジタル教科書のご紹介

書写 30 一生ものの、書く力。

平成28年度版『中学書写』のご紹介 ————— 甲斐利恵子

書かれた言葉

をちゃんと

「読む」

ノンフィクション作家 関川夏央

書かれた言葉と「向き合う」ということは、書かれた言葉をちゃんと「読む」ことに尽きると私は思います。ひるがえっていいますと、書かれた言葉は意外にちゃんと読まれていないのではないかと疑っているわけです。

夏目漱石『こころ』は一九一四年に書かれ、朝日新聞に連載されました。亡くなる二年半ほど前のことで、慢性の胃潰瘍のうえに定期的に襲われる不安のせい、かなり重苦しい小説になりました。

二〇一四年は『こころ』が書かれて百年ということで、朝日新聞が『こころ』を再連載しました。それに先立ち何か書いてくれと朝日の人にいわれたので、やや気軽に引受け、再読しかけて我ながらびっくりしました。

というのは、それが初読だったからです。長い年月のうちに何度か読みかけてはやめていたのは、この作品の「暗さ」のせいだったでしょう。『こころ』は高校の国語教科書で圧倒的に多く採用されているそうですが、私にはその理由がよくわかりません。

『こころ』の登場人物は、「先生」とその妻「静」さん、「先生」の旧友で昔自殺してしまった「K」という人、それに語り手の「私」です。この中で名前が書かれているのは「静」さんだけです。

東京帝大文科大学の学生であった「私」は、鎌倉の海水浴場で「先生」と知り合い、その後「先生」の本郷の家を訪ねて、奥さんとも心置きなく話す間柄になりました。やがて「私」は大学を卒業、郷里の父親の具合が悪いので田舎に帰ります。卒業後の就職は決まっていません。何になりたいか自分でもよくわからず、「先生」も無職だし、などと思っています。父親の病状は悪化、滞在は長引きます。

そうこうするうち明治天皇が亡くなり、ひと月半後の天皇大喪の夜、乃木希典夫妻が自刃したと新聞に出ます。乃木夫人は静子といひます。

そこへ「先生」からぶ厚い手紙が届きます。それは「遺書」でした。

「先生」は越後高田の出ですが、第一高等学校入学直前に父母を亡くし、実家の財産管理を叔父に頼んで上京しました。その叔父が帰省のたびに自分の娘との結婚を勧めるのは、「先生」の家の財産を自由にしたいからでした。「先生」は遺産の公債だけを持ち、故郷を捨てます。大半は叔父に取られたということになります。

「自分は他に欺むかれた」から人というものが信用できないのだ、と「先生」の遺書にあります。「造り付けの悪人はいない」つまり叔父も元来の悪人ではないのだが、「金を見ると人は変るのだ」。

「K」も同郷の優秀な学生でした。医科進学を義務づけられていた彼は、一高でも帝大でも文科を選んでいたことを故郷の養家に告白して養家に離籍を通告さ

いでしょ。うか。

「先生」という語感から私たちはかなりの年配の男を想像しますが、彼は亡くなったとき三十五、六歳です。静さんは二十九歳、「私」は二十三歳くらいです。みな若いのです。

「K」が死んだのは十二年前の春、つまり一九〇〇年で、その年初夏に大学を卒業して以来、「先生」は金利生活をつづけ、一度も働いたことがないのです。こういったことは時系列も含め、すべてテキストに書いてあります。

「先生」は「明治の精神に殉死するつもりだ」といひます。では「明治の精神」

関川夏央
せきがわなつお

1949年新潟県生まれ。作家。『海峡を越えたホームラン』（双葉文庫）、『砂のように眠る』（新潮文庫）、『昭和が明るかった頃』『二葉亭四迷の明治四十一年』（文春文庫）、『子規最後の八年』（講談社）、『解説する文学』『昭和三十年代演習』（岩波書店）など著書多数。第2回手塚治虫文化賞を受賞した『坊っちゃん』の時代』（画：谷口ジロー）など、マンガ共作も手がける。

六歳下の静さんを、そのさらに六歳下の「私」に託したということなら、ここにも「資産継承」の物語がひそんでいます。いずれにしろ、とても子供向き、高校生向きの小説とはいへません。

書き言葉のテキストと「向き合う」とは、俗な解釈の追認ではありません。そこに書かれていることをていねいに読む、それに尽きるといひお話でした。

れ、実家からも勘当されました。生活に窮した「K」に同情した「先生」は、日清戦争未亡人が営み、女学校生徒の娘さん（静さん）がいる自分の下宿に住まわせます。しかしやがて、静さんと「K」の親しさに嫉妬した「先生」は、娘さんを、妻に「是非下さい」と未亡人に申込みます。抜け駆けです。それを知った「K」は自殺します。金だけではなく、恋愛を前にしても人は変るのです。

「先生」と静さんは結婚します。しかし「他に愛想を尽かした私は、自分にも愛想を尽かして動けなくなった」「先生」は、仕事をせず、公債の利子だけで「遊民」としてひっそり暮らします。歳月は過ぎ、一九二二年九月、乃木希典夫妻が明治天皇に「殉死」したのを機に「先生」は自殺します――

『こころ』は「恋愛と友情の相克」をえがいた名作といわれますが、ほんとうにそうか。人の心であれ自分の心であれ「こころ」など信用できないという自己嫌悪の小説、あるいは財産相続問題をえがいた経済小説と考えた方が妥当ではな

特集

つむごう、 きみの物語を。

平成二十八年度版『国語』のご紹介

新版では、生徒たちに豊かな表現や思考をもたらす「上質な言語体験」を実現する教科書を目ざしました。
教科書の作品や活動を通して、生徒一人一人が、かけがえのない自分の物語をつむいでほしいと願っています。
この特集では、そうした願いを受けて、新しい教材を書いていたいただいた筆者の思いや、新版教科書の特徴・工夫点についてご紹介します。

対談

「問う」と「へいふ」

—新教材「科学はあなたの中にある」(二年)をめぐる—

最相葉月

ノンフィクションライター

甲斐利恵子

港区立赤坂中学校主任教諭

最相さんには、平成二十八年度版『国語』二年の説明文教材「科学はあなたの中にある」を書きおろしていただきました。

ノンフィクションライターとしてさまざまな人取材し、『絶対音感』や『青いバラ』『星新一 一〇〇一話をつくった人』など、話題作を次々と生み出してきた最相さん。この対談では、甲斐先生を聞き手として、教材に取り上げられた科学や「問い」について、取材体験や本の魅力にも触れながら迫っていきます。

撮影：鈴木俊介

科学は理解するもの

甲斐 初めて『絶対音感』(※1)を読んだとき、最相さんの「これを知りたい」という思いと、突き動かされる何かにどんどん挑戦していく姿に圧倒されました。今回、執筆にあたって「科学」をテーマになさっ

※1：音楽家や科学者200人以上に取材し、「絶対音感」の謎を探り音楽の本質に迫った作品。小学館ノンフィクション大賞受賞作。(新潮社)

絶対音感

科学とは、 真実を知ろうとする 人間の営み。

最相



さいしょう は つか
最相葉月

1963年東京都生まれ。ノンフィクションライター。科学技術と人間との関わりや異文化コミュニケーション等を主なテーマとする。著書に『絶対音感』『青いバラ』『星新一 一〇〇一話をつくった人』『セラピスト』（以上、新潮社）、『ビヨンド・エジソン』（ポプラ社）、『特別授業 3.11 君たちはどう生きるか』（共著 河出書房新社）など。

たのはなぜですか。

最相 3・11以降、「科学が信じられない」という言葉があちこちで聞かれました。私は、みんな科学を信じていたのかと驚いたんです。星新一について取材していたとき、星が「宗教は信じるものだけど、科学は理解するものだ」という言葉を奥様だけに語っておられたことを知りました。そのことが非常に印象的で、そもそも科学を「信じる」「信じゃない」という尺度で測ることにすごく違和感を覚えたんです。人々の科学に対する認識が違うような気がして。

甲斐 「科学を信じる」という言葉に反応されたんですね。

最相 はい。「技術力を信じる」といった言い方はすると思うんですけども、科学自体は、真実を知りたいという探求心とか、原理や法則を発見しようとする営みだと思

うんです。何かを突き詰めて考えていく、問いを出して、究極のところまで迫りたい、明らかにしたいという人間の思いに支えられた行為、あるいは思いそのものだと捉えています。

甲斐 私たちは、科学が発達したことで豊かになったとか不幸がもたらされたとか、そういった狭い文脈で科学を捉えがちです。私なんて、科学と聞いただけでちよっと敬遠してしまいます。高校のとき、物理のテストが五点でしたし（笑）。

最相 私も物理でこねました（笑）。でも、人間はジャンルで生きているわけではありません。私は、科学というのは、専門的な勉強をしている・していないとか、理系・文系といったことは関係なく、小さい頃から気づき、なんとなく感じるものだと思うんです。生きていくうえにおいて、日常

の全てに関わってくることなので、科学それ自体は、理科とか国語という枠組みを超えるものということです。今回は、そういうことをテーマに書かせていただきました。

甲斐 教材の最後の部分（P 223）

科学とは、事実や事象をまっすぐに受け止め、「なぜ」と問い、平らかな気持ちで検証し、真実に一歩でも近づこうとする人間の営みである。

もう何度も読んで、「そう、これを生徒と共有したかったの」と思いました。科学がこういうものなら、もう毎日が科学のチャンス。

最相 そう、そうなんです。

問うということ

甲斐 教材の冒頭（P 218）には、高校時代の理科の授業で、ろうそくの観察記録を發表する場面が出てきます。

私の隣に座るMさんの番になった。次はいよいよ自分だと思うと、緊張感が高まった。ところが、Mさんの話を聞くうちに、だんだん頭の中が真っ白になっていった。Mさんは最後の最後までろうそくに火をつけずに、なでたり割ったりして疑問に思ったことを書き記していたのである。ろうの原料は何か。なぜこんな臭いをするのか。なぜこんな手触りなのか。一気に燃え尽きることなく、ゆっくりと時間をかけ

て燃えるのはなぜなのか、という問いもあった。

やられた、と思った。ろうそくとは火をともしものという先入観にとらわれていたことに気づかされたからだ。その後、自分が何を發表したのかは全く覚えていない。ただ、Mさんの凛とした横顔だけが目に焼き付いている。

最相 このときはとてもショックを受けて、自分が恥ずかしくなったんです。物事というのはこうやって見るんだ、と。自分の凡庸なところに気づかされた、ある意味すごく痛みのある体験でした。

甲斐 同級生に刺激を受けたんですね。
最相 私の場合はそうでしたが、実はすぐ

そばにいる人が、そういう刺激をくれることってあると思うんです。近所のおばあさんとか、普段いっしょに遊んでいる友達、自分よりもっと年下の小学生とか。自分が問いかけてもいなかったことに気づかされるだけでも、貴重な体験だと思います。

甲斐 幼い人たちの問いに、はっとさせられることも多いですね。

最相 非常に卑近な例で恐縮ですけど、甥っ子が小学三、四年生くらいの頃に「血がつながっているってどういうこと？」と私にきいたんです。私の弟の息子なんです。が、「弟と私は血がつながっているけれど、あなたのお母さん、つまり弟の妻、彼女とは、私は血がつながっていないのよ」と家系図を描いて説明しましたが、わかってもらえたかどうか心配です。

甲斐 思いがけないところに問いが存在し

もう毎日が 科学のチャンス。

甲斐



かいりか
甲斐利恵子

1955年福岡県生まれ。東京都港区立赤坂中学校主任教諭。専門は国語科単元学習。著書に『子どもの情景』（共著 光村教育図書）、『聞き手話し手を育てる』（共著 東洋館出版）、『中学教師もつらいよ』（共著 大月書店）など。光村図書中学校『国語』教科書編集委員を務める。



問い自体を
問う力を育てたい。

甲斐



※2：1861年にロンドンで行われたファラデーの講演記録。1本のろうそくを用いて、科学や自然、人間との関わりを易しく説く。(角川書店)

ていますね。

最相 本当に。実は、そここに問いかけがあることに気づかせてくれます。そして、それをいかにキヤッチして自分のものにするかという受容力の大切さを痛感します。

甲斐 今回の教材では、「Mさん」の話の後に、マイケル・フアラデーの『ロウソクの科学』（※2）を取り上げられています。

最相 『ロウソクの科学』は大変なロングセラーで、どなたでもご存じの古典だと思っています。それをあえてここで紹介したのは、やはり科学をサイエンス・テクノロジーとしてではなくて、身近なところに原点や出発点があるものとして、短い文章の中に凝

縮して描かれているテキストだからです。

甲斐 産業革命に関わる人ですね。

最相 ファラデーが生きた十八世紀から十九世紀は、あらゆるもののスピードが速くなり、夜が明るくなり、大量生産ができるようになり、技術の進歩によって世の中の価値観ががらりと変わった時代です。そして現代も、イン

甲斐 産業革命に関わる人ですね。

考えることも、教材から離れた新しいテーマになるように思います。

甲斐 この教材は、いろいろな視点から見えていくことで、また新たな問いが生まれそうですね。

最相 甲斐先生の授業は、子どもが自然に問いを発するように誘うアイデアがいつ

甲斐 この教材は、いろいろな視点から見
ていくことで、また新たな問いが生まれそ
うですね。

最相 甲斐先生の授業は、子どもが自然に
問いを発するように誘うアイデアがいっ

ターネットの発達で
コミュニケーション
の形が激変し、リニ
アモーターカーなど
ができて移動のス
ピードがより速くな
り、さらに未来エネ
ルギーにどう向き合
うかといった問題が
あり……。二つの時
代を照らし合わせて
人が急激な変化にど
う対応していくかを

No.	
シノ日記 No. 21	△日
夢契	今日は三日後の大切な会議のために大手会社に契約をとりに入た。その日は暑く重たい契約のため、もうのどが渴き、口が干つきそうになつた。親類といふ節下村上君と一緒に会社の前立した。いざという時村上君は助太刀をしてくれさうと見合い指名した。そしてその時がきた。「我々が会社の新開拓のためです！ お願します！」と力を入れ村上君と二人の頭を下げたが拒否されてしまった。だが二がふらばり所へ急ぎヨイロと披露し勇気を振舞う一席をお願いしたらなんと八こともらえた。それにしてものな事で結果がかわるなんて全く成序ない世のずだ。
夢披	
夢拒	
夢推	
夢托	
夢殺	

▲新出漢字を使って日記を書く活動。架空の内容でよく、10分程度でどれだけ多くの新出漢字を使えたかがポイント。

ぱい。例えば新出漢字で書く「ウソ日記」、おもしろいですよね。

甲斐 この学習は盛り上がるんですよ。先生、うそつくことがいいことなんですか?」つてきかれて、「そう、うそつけないとだめなのよ、この学習は」つて(笑)。教室の空気がぱあっと明るくなるんです。「ウソ日記」を通して、これまで考えてもみなかった自分の発想の豊かさや、別の角度から物事を見るおもしろさに気づくんですね。そういう思考の流れが「問いが生まれる」ことにもつながっているように思います。

最相 私も甲斐先生の授業を受けていたら、

どれだけ国語が得意になったか。

甲斐 先生が発問して生徒を引っ張っていく授業もあるのですが、私は本来、問いが生まれるようにもっていくことが授業なのだと思うんです。そのためには、問い自体を生み出す力や原動力が大切ですし、問いを吟味していく力、問い自体を問う力を育てることが、今の国語で重要な課題だと感しています。人間にとって何が学びを生むのか、大真面目に子どもたちと語り合いたいですね。

問いを
キャッチコピーにする

甲斐 最相さんご自身は、例えばどんなふう
に問いを立てて取材なさるのですか。

最相『青いバラ』（※3）という本の取材は、人工的に遺伝子を組み換えることによって、過去になかった色を出そうとする

技術があることを知ったのがきっかけです
それでまず、遺伝子を組み換えるつてどう
いうことなんだろうと。

甲斐　　なんだか怖い気がしますね。

最相 ええ。ただ、実際にそれが可能になっているということは、人間が何か手を動かしてやっているはずですよ。そこで、ある大学の初心者向け研修コースに参加して、自分の手でやってみたんです。ピペットと大腸菌を使って。

甲斐 実際に行動されるところがすごい。

最相 やらないとわからないと思つたんです。知らないことが、恐怖や偏見を生むと思いますので、まず自分でどんなものかを知って、体験できるものがあれば体験して、そして伝える。これがスタート地点として自分には必要だという気がしています。

甲斐 ご著書を読んでいると、一つ一つの問いを解決しようとして、足を使い、ぐんぐん前に進んでいかれるスピード感をすごく感じます。同志社女子大学の村瀬学先

考えることも、教材から離れた新しいテー

甲斐 この教材は、いろいろな視点から見
ていくことで、また新たな問いが生まれそ
うですね。

最相 甲斐先生の授業は、子どもが自然に
問いを発するように誘うアイデアがいっ

まず自分で知り、体験し、そして伝える。

最相

最相



※3：「不可能の象徴」である青いバラが最先端のバイオ技術によって可能になりつつある。バラ育種をめぐる人々の夢と挫折を追い、科学と人間の関係性に迫ったノンフィクション。(岩波書店)

その子の立てた問いを本気で聞いて、吟味して、きちんと補充してあげる。

甲斐

生(※4)が「人間は知の方向に突っついて生き物だ」と言われていましたけれども、まさにそんな印象です。やはり最初は「問い」なのですね。

最相 私は、問いを立てたら、それにキャッチコピーを付けるようにしています。そうすることで、方向性がはっきりして、次の問いがまた次の問いを生み、まさに知の方向に突っついていくように、前に進める気がするんです。

甲斐 『絶対音感』を書かれたときはどうでしたか。

最相 私は、まず「絶対」なんてありえないと思ったのです。人間の感覚は常に相対的なもので、聴覚にしても風邪をひいたり疲れていたりするときは、そんなに研ぎ澄まされた感覚があるわけないと。だから最初のキャッチコピーは、みんな天才的な能力のように言うけれども、「実は絶対音感はいりくじょんではないか」としました。

イリくじょんであるかどうかを知るために取材していくのです。

甲斐 問いをキャッチコピーの形にすると、方向性が見える、というわけですね。

最相 そうです。例えば、昆虫が好きな子に「どうしてこの昆虫が好きなの?」ときくと、「甲羅が固いんだ」とか「羽の色がすごくきれいなんだ」とか「この地域にしかないんだ」と言う。そうしたら例えば「なぜその虫はその地域にしかないのか」という大きな問いになって、「じゃあ、それ以外の地域にはなぜ生息できないのか」というもう一つの問いを生む。「同じように生息している虫が他にいるか」ということも調べだし、「共通点はあるか」など、次々と問いが生まれていく。最初に問いを立てられれば、しめたものです。

甲斐 なるほど。ただ、子どもたちを見てみると、問いを立てさせても、自分でぐんぐん動いていくというふうにはなかなか



らないときがあつて。問いが問いを生む仕掛けというか、問いと次の問いとの間をつなぐすべを教えていない気がします。

最相 たぶんそれは、次の問いを誘導するようなテーマ自体の強さがないからかもしれないですね。インターネットでちよつと調べたらすぐ答えが出てしまうような問いではだめなんですよ。答えが見つかるまでは前に進めないと思うほど、その子にとって切実な動機が含まれている問いというものに、気づいてあげられる大人が必要です。

甲斐 我々、教員の存在も大切なですね。**最相** 子どもがぼんやりと問いを立てたときに、もつときりきりと問い詰めていく。「それはどういうこと?」「なぜそこが知りたいの?」ときいていくと、「ああだから、こうだから」と返ってくる。その派生する問いを一つ一つ確認し、書き出して並べていくことで、その子の次に進んでいく方向性が切り開けてくると思います。

甲斐 そうですよ。教員の仕事も、その子の立てた問いを本気で聞いて、吟味して、きちんと補充してあげることだという気がします。大村はま先生(※5)が、「意味ある大人がここにいてくれるという安心感が学びを開く」という意味のことをおっしゃっておられたのが、まさにそうだなと思いました。

本当にききたいことを尋ね合う、そういう授業をしたいとも思っています。何か見えない糸を引いているような授業では悲しくなってしまうから。この教材で、「問う」ということにしっかり向き合える授業ができれば、本当にいいなと思います。

ノンフィクションを書くということ

甲斐 最相さんは星新一についても書かれ

ノンフィクションは、自分が立てた仮説が裏切られることの連続なんです。

最相

※4：1949年京都府生まれ。同志社女子大学教授。児童文化研究者。

※5：1906－2005年。神奈川県生まれ。国語教育研究家。戦前・戦後を通じて52年間、現場教師であり続け、「大村単元学習」を確立した。

※6：ある日突然できた底なしの穴に、放射性廃棄物や都会のゴミを次々と捨てる人間。しかし、ある日、空から……。『ポッコちゃん』所収(新潮社)

※7：月に2～3回、10分程度、聞き浸る時間を設けている。

※8：人口増加と科学の進歩で繁栄を極めた人類が、子どもを産めなくなって滅亡のときを迎える日々を描いたショートショート。『ポッコちゃん』所収(新潮社)

中学生と接していると、 人間の原点みたいな感じがするんです。

甲斐

たり資料を見ていたりする中で、最初に自分が立てた仮説が裏切られることの連続なんです。自分がこういう方向で書こうと思っけていても、ある人の発言によって修正を迫られたり、ゲラの段階で足りない情報を確認したら間違いに気づいたり。

甲斐 次の問いがいいかどうかを吟味しながら進める感じではないのですか。

最相 問いを吟味するというよりは、自分が行動することでそれが修正されていくという感じだと思います。

甲斐 「だめだった」と言っけてはまたデータを集めて取材をし直して。その積み重ねが、あんなすばらしい作品を生むのですね。

中学生という世代

甲斐 『調べてみよう、書いてみよう』（※9）は初めての児童書ということですが、



※9：テーマの決め方・調べ方・取材のしかた・文章の書き方を、実際の子ども文例を交えながらわかりやすく解説した児童書。（講談社）



甲斐 『調べてみよう、書いてみよう』（※9）は初めての児童書ということですが、

本当にすばらしいですね。ジュニア向けの文章の書き方の本というのは普通、残念ながら必ずレベルダウンするんです。中学生という生身の人間ではなく、「あまり物事がわかっていない、少し幼い人たち向け」という前提がどこかに見え隠れして。中学生って、そういう「上から目線」に非常に敏感で、そうした文章からは学ぼうとしないんです。

最相 「上から目線」にならなかったのはきつと、私が今、小中学生のノンフィクション作品や大学院生の論文コンテストの審査員などをさせていただいて、実際に子どもの文章を読む機会が多いからだと思います。今まで思いもなかったような視点を小学一年生の文章から発見できることがありますし、どの作品にも、知らないことが必ず一つはあるんです。そうすると、下に見るとかは絶対にできない。むしろ怖い読者だという感じがします。

甲斐 中学生と接していると、なんか人間の

の原点みたいな感じがするんです。正しいことが格好悪いように言うくせに、心の中では正しいことに憧れていたり、絶対いい人になりたいと思っけていたり。

最相 子どもの文章を見ると、小学六年生ぐらいから、優等生的なことを書く子が増える気がしますが、何か関係があるのでしょうか。

甲斐 それは、気に入られたいというより、そうありたいという願望だと思うんです。

最相 彼らは本気で思っけているんですね。

甲斐 ええ。本気のこと多いですし、あるいはそういう表現しか知らないことが多い。ただ、物事を単純化して、わかりやすくしすぎないように教えられたらと思っけています。正しいことを言えば、もうそれで答えが出たと勘違いしてすつきりすること

も多いですね。

最相 それが必ずしも答えというわけでは

ありませんね。

甲斐 そうなんです。子どもたちはすぐ「で、答えは何？」ときくんです。答えなんてそう簡単には出ないのに。だからこそ、問い続けることが大事なんだと気づかせたいですね。

最相 私が今回教科書に書いた文章も、正しい読み方があるわけではありません。ファラデーの『ロウソクの科学』を例に挙げていますが、産業革命の時代と今とを照らし合わせながら読んでもいいですし、この考え方はちよつと違ふとか、そういうものもあつていいですね。読者の数だけ読み方があると思っけています。

甲斐 最後に、中学生に伝えたいことをお願いします。

最相 今おもしろいと思っけていることを一生懸命おもしろがつてほしいと思っけています。そのとき、単に没頭するのではなくて、自

分が人をおもしろがらせる立場に立つたらどうするだろうと視点を転換させてみる。

例えばゲームでも、それを作る側の立場からなぜそのアプリを開発したのかを考えていくと、そこには絶対、こんなことができたおもしろい、というような開発者の発想が見えるはず。熱中しているそのことの先に、もう一つの視点を得られたら、もつともつと楽しめると思っけています。

甲斐 そうした見方ができるようになると、本当にノンフィクションが書けますね。

最相 そうですね、ライバルが増えて怖いですがね（笑）。でも、例えば全国の子供たちが、身近にいるおじいちゃん、おばあちゃんの話聞き取つて書くだけで、ものすごい文化遺産になるんじゃないかなと思っけています。子どもたちみんながノンフィクションライターつていうのも、楽しいなと思っけています。

熱中していることの先に、
もう一つの視点を得られたら、
もっと楽しめる。

最相



新版教科書 クロージアアップ

阿部 昇
秋田大学教授
光村図書中学校『国語』編集委員

平成二十八年年度版『国語』は、次の三つの柱を基本方針として編集しました。

① 身につける力がはつきりわかる教科書

② 言葉への感覚が豊かに深まる教科書

③ 「生きること」「生き方」を考える教科書

全国学力・学習状況調査で、国語が「好き」と答えた子どもは、小・中ともにほぼ二割にとどまっています。その最大の原因は、国語はどんな力がつくのかかわからないということにあります。確かな力が身についていく国語は、楽しく知的刺激に満ちているはずです。しかし、これまでそれが十分にできてこなかったのです。

新版教科書では、どんな力がついたかわかる国語、言葉を学ぶことが楽しくなる国語、そして生きること考える国語を実現します。

① 身につける力がはつきりわかる教科書

例えば小説は、出来事の発端、やま場、結末などを意識するだけで、ずっと深く楽しく読めるようになります。また、語り手に着目することで、小説の隠れた魅力が見えてきます。説明的文章も序論・本論・結論を意識し、その中心の文や段落に着目すると全体像が見えてきます。そして、それらの構成や論理の相互の関係を意識すると、文章の工夫も浮き上がってきます。「書くこと」「相手の反論を予想しながら書く」という方法を学ぶと、より説得力のある意見文が書けるようになります。

こうしたことを踏まえ、「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」それぞれに教材を系統的に配列し、それに対応する

様なアプローチを工夫しました。

さらに、それらを広げる読書案内も充実し、これからの世界を生きる生徒たちにとって必須の情報教材も三学年に系統づけました。インターネット、新聞、テレビをはじめとするメディアとの関わり方も重視しています。

次ページからは、新版で目ざした三つの柱について、それぞれ特徴的な紙面をご紹介します。



形で「身につける力」を系統的に明示しました。その教材で学習したことが、次の教材で着実に生きる構造によって、確かな力が系統的に身につく教科書になっています。

② 言葉への感覚が豊かに深まる教科書

私たちは言葉で世界を豊かに捉え、言葉

③ 「生きること」「生き方」を考える教科書

国語の学習は、言葉の力を身につけ、言葉の豊かさを知ると同時に、「生きること」「生き方」を考える場でもあります。新版教科書は、小説、詩、古典などの文学作品、説明文、論説文、ノンフィクションなどの説明的文章で、中学生が自分自身の存在や人の生き方について考えられるように、多

あべのぼる
阿部 昇

1954年東京都生まれ。全国大学国語教育学会理事、日本NIE学会理事、日本教育方法学会常任理事、お茶の水女子大学COEプログラム国語学力検査責任者、秋田県検証改善委員会委員長。著書に、『文章吟味力を鍛える—教科書・メディア・総合の吟味』『授業づくりのための『説明的文章教材』の徹底批判』（以上、明治図書）など。



身につける力がはつきりわかる教科書

読みの観点を整理し、汎用的な力を育てる

「読むこと」学習用語のまとめ

各学年の巻末折込に、文学と説明文をより深く読み取るための観点となる学習用語と、その用例を当該学年の教材の中から抜き出してまとめました。

「走れメロス」を読んで、「人物像」につ

いて学習するなど、教材ごとに示されている観点を一覧にすることで、汎用的な読みの力につながるよう意図しました。

一年から、こうした学習用語（＝読みの観点）に着目して学んでいくことによって、三年の言語活動例に示されている「物語や小説などを読んで批評すること」の学習に

おいて、よりスムーズに批評の観点を見いだすことができるようになります。



当該学年での学習事項を中心に項目を挙げ、文章を読解していくおまかな手順として番号を付けています。

内容は、一般的な用語の定義にとどまらず、学習の手引きと連動させ、読み取り方の工夫まで解説しています。

教材中の用例を示し、具体的に理解できるように工夫しています。

文学的な文章を読むために（物語・小説）

ここでは、文学的な文章を読むための基本的な学習用語をまとめています。作品を読む際には、ここに挙げた項目を意識して、作品の描き出す世界を読み深めよう。

1 文学的な文章の種類

文学作品には、物語や小説・随筆などの散文、詩・短歌・俳句などの韻文がある。
物語や小説には、現実の世界を基にしたものの他に、現実にはない幻想的な世界を描いたファンタジー、科学の発想で空想的な世界を描いたSF（サイエンス・フィクション）、推理小説、歴史小説などさまざまなものがある。
一般的に、長いものを長編（小説、短編）の短編（小説）とよぶ。

2 題名

物語や小説の題名は、作品の舞台となる時や場所、登場人物の名前、作品を象徴する情景や事物、作者の心情を表す言葉などを織り込んで付けられることが多い。
題名の意味や付けられた理由を考えて読むことで、作品をより深く味わうことができる。

例「花曇りの向こう」「星の花が降るころに」
「光る地平線」
作品を象徴する情景を表している。
「大人になれなかった弟たちに……」
作者の心情を表している。

3 語り手

物語や小説は、語り手によって、話が進められる。語り手は、作品中の登場人物である「私」や「僕」などの場合が多い。例えば、「花曇りの向こう」では「僕」、「星の花が降るころに」は「私」が語り手である。
このような場合、情景や状況、物事や人の様子などは、語り手となった登場人物の視点に沿って語られることになる。そのため、作品が誰の視点から語られているのかを意識して、読むことが大切である。また、他の登場人物の視点から見た場合、描かれている出来事はどのような

4 構成

物語や小説は、次のような流れで構成されることが多い。
状況設定（導入）
作品の舞台となる時代背景や場所、登場人物やその置かれた状況などが示される。
出来事の発端・展開
ある出来事が起こるきっかけや、その経緯が示される。
やま場
状況が大きく動く場面。登場人物の心情や考え方が大きく変化することが多い。
結末
出来事の後などが示される。余韻をもたせるなど、さまざまな工夫がなされる。

5 場面

作品の中で、時や場所、登場人物の組み合わせなどが同じ部分は、一つの場面として捉えることができる。それらの幾つかの場面が展開して、一つの作品となる。次のような部分に着目して、各場面とその展開を捉えよう。
一行空いている部分
文章が一行空けられている部分は、場面の変わり目や目次などが多い。ただし、その中でも幾つかの場面に分けられることがある。

例「二年たつて、僕たちは、もう大きな少年になつてたが、」——「少年の日の思い出」
場所（地名・建物・風景など）を表す言葉
登場人物の出入りや示されることもある。

例「私は戸部君を押しのけるようにして立ち上がる」と廊下に向かった」
——「星の花が降るころに」

6 登場人物の設定

文章の内容を的確に捉えるためには、中心的部分と付加的部分を読み分けることが必要である。段落やまとまりで、最も述べたいことが書かれた部分。段落やまとまりの終わりが始まりにまためられることが多い。「つまり」「すなわち」などの語句を使ってまとめられることがある。

7 登場人物の心情

登場人物の心情は、置かれた状況を踏まえて、そのような心情になった理由と共に捉える。場面ごとの心情を押さえたなら、作品全体で心情がどのように変化しているかも捉えよう。
心情は、次のような点から考えられる。
感情を表す言葉や心の中で思ったことが語られる部分
例「うれしい」「悲しい」「満足」「不満」「胸がいっぱいだ」「気をもむ」（慣用句）
「心の中に春風が吹いたようだ」（比喻）
「これで極が全部散ってしまふな。」と言えはよかったとか、「花曇りって何」ときけばよかったとか。
——「花曇りの向こう」
登場人物の行動・様子
例「お守りみたいな小さなビニール袋をポケットの上からそととてた」
——「星の花が降るころに」
会話文
会話文には、そのときの気持ちや、会話の相手への気持ちが表れる。会話文の前後に描かれる様子にも着目する。
例「私は戸部君をにらんだ。『なんか用？』」
——「星の花が降るころに」
情景描写
文学作品の中では、人物の心情を反映させて風景を描くことが多い。
例「晴れることを放棄したようなぼやけた空」
——「花曇りの向こう」
「白い乾いた一本道」
——「大人になれなかった弟たちに……」

8 音読・朗読

音読は、声に出して文章を読むことである。文学作品では、場面、登場人物の気持ちや人物像をよく理解して、それらが聞き手に伝わるように音読する。朗読は、作品に対する自分の解

手引きの「学習の窓」では、それぞれの教材に応じた読解の手がかりを示したうえで、巻末折込にリンクさせ、一覧で整理できるようにしています。

一年「星の花が降るころに」

学習の窓
人物の行動や情景描写から心情を読み取る
人物の心情は、会話や、心の中を説明した文章だけでなく、次のような行動や情景描写からも読み取ることができる。
・くると後ろを向く（112ページ8行目）
・暗い電灯の下で（112ページ8行目）
・空は高く高く青く澄んでいました（112ページ16行目）

学習の窓
場面の展開に着目して、人物の変化を読み取る
物語の場面は、時間や場所、中心に描かれている人物などによって分けられる。物語は、それらの場面がつながることによって、出来事の発端、やま場、結末などへと進む。
場面の展開に着目すると、人物の気持ちや、ものの見方、考え方の変化を整理してとらえることができる。

一年「大人になれなかった弟たちに……」

手引きの「学習の窓」では、それぞれの教材に応じた読解の手がかりを示したうえで、巻末折込にリンクさせ、一覧で整理できるようにしています。



語彙力を高め、語感を磨く

言葉が増えれば、同じ景色を見ても違って見えてきます。また、言葉に敏感になれば、身の回りのものを見つめる目も違ってくるはずですよ。

一年冒頭の「言葉に出会うために」に掲げた文章では、次のように呼びかけました。

言葉の数だけ、世界は豊かに見えてくる。
言葉の数だけ、未来は希望に満ちてくる。
言葉の数だけ、自分の可能性が開かれる。

新版教科書では、この願いを生徒たちに届けるために、さまざまな教材化の工夫をしました。

言葉としつかり向き合い、言葉のもつ力を感じ取らせる教材、語彙力を高め、語感を磨きながら表現力を培っていくことができる教材、そして、日本の風土や季節感を言葉で味わう教材など、三年間でじっくり言葉を見つめていきます。

言葉を見つめる系列を新設

各学年の第三系列は、韻文、言葉に関する活動コラム、随筆・論説をセットとして構成しています。それらの教材を通して、言葉そのものを見つめ、言葉の力や価値、特性などを学びながら、言葉への関心、感度を高めていくことを目的としています。

▼韻文と解説 詩的な言葉遣い、言葉の組み合わせのおもしろさなどを通じて、言葉によって生み出される世界の豊かさを味わいます。

▼活動コラム「もつと伝わる表現を目ざして」 言葉を集めたり、分類したり、比較したりしながら語彙力を高め、語感を磨いていきます。

▼随筆・論説 言葉のもつ力を感じ取らせたり、考えさせたりすることをテーマとしています。

詩の言葉で豊かな心を

詩ならではの繊細な言葉遣いや表現に触れ豊かな心を育むように、各学年の各学期に詩教材を取り入れました。一学期は、朗読に適し、学年のスタートにふさわしい詩を置いていきます。

さらに、各学年に近代詩を新しく掲載し、格調高い言葉に触れ、味わうことができるようにしました。

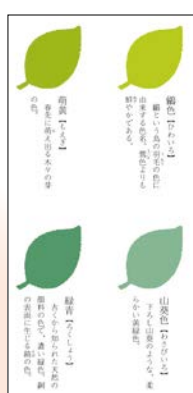
3年	2年	1年
春に………谷川俊太郎 挨拶………石垣りん 初恋………島崎藤村 わたしを束ねないで………新川和江	見えないだけ………牟礼慶子 落葉松………北原白秋 鍵………茨木のり子	野原はうたう………工藤直子 てがみ………寺山修司 太陽………八木重吉 魚と空………木坂涼 竹………萩原朔太郎 ぼくがここに………まど・みちお



言葉で味わう日本の感性

たくさんの言葉や表現を身につけていると、季節感もいっそう深く味わうことができます。そのために、四季折々に設けた「季節のしおり」をリニューアルしました。ぜひ暗唱してもらいたい有名な詩歌や、二十四節気の名称、季語を取り上げています。

また、各学年の後見返しには「色いろの言葉」として、日本の伝統色の名称を取り上げ、日本人が受け継いできた繊細な感覚を知ることができるようにしています。



▲各学年後見返し「色いろの言葉」



3年	2年	1年
【論説】「批評」の言葉をためる …竹田青嗣	【随筆】言葉の力 …大岡 信	【詩】詩の世界 …山中 勉
【活動】言葉を選ぶ …宇多喜代子	【随筆】言葉を見つめる …大岡 信	【活動】言葉を集めよう …山中 勉
【活動】言葉を選ぶ …宇多喜代子	【随筆】言葉を見つめる …大岡 信	【活動】言葉を集めよう …山中 勉
【活動】言葉を選ぶ …宇多喜代子	【随筆】言葉を見つめる …大岡 信	【活動】言葉を集めよう …山中 勉



▲3年「言葉を選ぼう」



▲各学年「季節のしおり」



未来を切りひらく力を育む

人の生きる姿を伝える

読書教材のうち、冬休み前をノンフィクションの系列として、同時代に生きる人間の姿を取り上げました。

いわゆる偉人伝ではなく、市井に生きる人々の生き方・考え方、職業観、使命感、ものの見方などを通して、「生きること」について真剣に考え、未来を切りひらく力を育むことを目的としています。

3年	読書に親しむ——世界の中で エルサルバドルの少女 ヘスース ……長倉洋海
2年	読書に親しむ——地域と共に 小さな町のラジオ発 ——臨時災害放送局「りんごラジオ」 ……高橋 厚
1年	読書に親しむ——伝統を生きたる 桜守三代……鈴木嘉一



▲2年「小さな町のラジオ発——臨時災害放送局「りんごラジオ」
「人々の『声』と共に泣き、共に笑い、共に前進していきたい」
津波で情報網や交通網が遮断された宮城県山元町。そこに住む元アナウンサーが、住民のために放送局を立ち上げたドキュメンタリー。



▲1年「桜守三代」
「桜は守りをせな、あきませんのや」
親子三代にわたって全国の桜を守り育ててきた佐野藤右衛門さんが語る言葉を軸に、桜にそそぐ愛情や、職業観、伝統への思いを伝える。



▲3年「エルサルバドルの少女 ヘスース」
「ヘスースは、自分の人生をたった一つのかけがえのない大切なものとして生きてきた」
難民キャンプで出会った一人の少女の笑顔と人生に20年伴走したフォト・ジャーナリストの記録。

情報社会を生き抜く力

「情報活用力」を育成するために、情報に関する教材を三年間の系統性をもたせ、ステップを踏んで力を身につけることができるようにしました。

一年では、身の回りにあふれるたくさんの情報の中から、自分にとって必要な情報、相手や場に応じた情報を的確に選び取る力、二年では、メディアの特性を考えながら、集めた情報を吟味できる力、三年では、情報を発信する意義や注意点を学びます。

さらに「インターネットを利用する」「著作権について知る」などについても、コラムとして気をつけるべき点をまとめています。

3年	情報の集め方を知ろう 活動 さまざまな方法で調べよう コラム①本から情報を集める ②インターネットを利用する ③新聞の紙面構成の特徴を知る メディアと上手に付き合うために ……池上 彰
2年	活動 いろいろなメディアから得た情報を比べよう コラム 著作権について知る 「想いのリレー」に加わろう ……藤代裕之
1年	活動 「情報発信」について考えよう



▲2年「いろいろなメディアから得た情報を比べよう」



テレビの試合中継
選手の動きや表情、観客の様子を映像で見ることができ、放送される試合が決まっているため、常に見たい試合を見られるわけではない。



新聞の報道記事
試合の経過や結果などの事実の他、選手の動きやプレーに関する解説や分析などを詳しく知ることができる。また、何度も読み返せる。



インターネットのウェブサイトを
ニュースサイトでは、試合結果を比較的早く知ることができる。個人のウェブサイトで、さまざまな意見や感想を知ることができる。



▲3年「情報発信」について考えよう」



▲1年「情報の集め方を知ろう」



文学教材一覧

（は新教材）

1年	2年	3年
詩 野原はうたう 工藤直子 物語 花曇りの向こう 瀬尾まいこ 詩 詩の世界 てがみ 太陽 魚と空 木坂 涼 【読書】 物語 光る地平線 魚住直子	詩 見えないだけ 牟礼慶子 小説 アイスプラネット 椎名 誠 短歌 新しい短歌のために 馬場あき子 短歌を味わう 【読書】 贈り物 マイケル・モーパール 小説 盆土産 三浦哲郎	詩 春に 谷川俊太郎 小説 握手 井上ひさし 俳句 俳句の可能性 宇多喜代子 俳句を味わう 【読書】 小説 高瀬舟 森 鷗外
物語 星の花が降るころに 安東みきえ 【資料】 小説 坊っちゃん 夏目漱石	随筆 字のない葉書 向田邦子 近代詩 落葉松 北原白秋 小説 走れメロス 太宰 治 詩 鍵 茨木のり子	小説 故郷 魯迅 近代詩 初恋 島崎藤村 詩 わたしを束ねないで 新川和江 【資料】 随筆 温かいスープ 今道友信
近代詩 竹 萩原朔太郎 小説 少年の日の思い出 ヘルマン・ヘッセ 詩 ぼくが ここに まど・みちお	【資料】 小説 ゼブラ ハイム・ポトク	【資料】 小説 蟬の声 浅田次郎



▲1年「花曇りの向こう」



▶1年「光る地平線」

磨き抜かれた表現に触れる

生徒が言葉の多様さ、豊かさ、深さを感じる事ができる優れた作品を選んでいきます。そうした表現に触れることで、生徒の語感が磨かれ、自らの表現にも生かそうとする意欲が湧くように教材化しました。

幅広いテーマからバランスよく

今を生きる生徒たちの日常生活を題材にした作品から、世代を超えて読み継がれ、普遍的な価値をもつ作品まで、バランスよく教材を配置しました。

説明文教材一覧

（は新教材）

1年	2年	3年
説明 ダイコンは大きな根？ 稲垣栄洋 説明 ちょっと立ち止まって 桑原茂夫 記録 シカの「落ち穂拾い」 ——フィールドノートの記録 から 辻 大和	説明 生物が記録する科学 バイオロギングの可能性 佐藤克文 論説 モアイは語る ——地球の未来 安田喜憲	説明 月の起源を探る 小久保英一郎 論説 新聞の社説を比較して読もう 論説 作られた「物語」を超えて 山極寿一
【読書】 ノンフィクション 桜守三代 鈴木嘉一	【読書】 ノンフィクション 小さな町のラジオ発 ——臨時災害放送局 「りんごラジオ」 高橋 厚 論説 科学はあなたの中に ある 最相葉月	【読書】 ノンフィクション エルサルバドルの少女 ヘスース 長倉洋海 論説 誰かの代わりに 鷺田清一
【資料】 説明 流水と私たちの暮らし 青田昌秋	【資料】 説明 五重の塔はなぜ倒れないか 上田 篤	【資料】 随筆 アラスカとの出会い 星野道夫

状況を考える力を

自然科学をはじめ、哲学や美術といった幅広い分野の文章を取り上げました。また、統括型、尾括型、仮説を立ててそれを検証していく型など、題材に適した多様な展開・文章構成を工夫しています。

多様な分野・文章構成の教材を

「科学はあなたの中にある」（二年）「作られた『物語』を超えて」「誰かの代わりに」（三年）は、「考えること」をテーマとした教材です。現代社会における課題を取り上げ、社会への関心を高めるとともに、自分の生き方・考え方を見つめることができます。



▲2年「生物が記録する科学」



▲2年「科学はあなたの中にある」

作者・筆者からのメッセージ

さまざまな情報や価値観にあふれた現代。人間関係の悩みや未来への不安を抱えている生徒もいることでしょう。新版では、彼らが自らの力で未来を切りひらいていくきっかけを与えてくれるような作品を数多く掲載しました。そのうちの三人の方に、作品に込めた思いを寄せていただきました。

「花曇りの向こう」

瀬尾まいこ
(1年・物語) → P25

中学生になって、なかなか新しいクラスになじめない「僕」。でも、ちょっとした買い物がきっかけで、曇り空の向こうに少し光が見えてきた予感が……。新入生が感じる不安と期待を、関西弁の祖母との軽妙なやり取りを織り交ぜながら描く。



みあげればがれきの上にこいのぼり
未来への川登り続ける
いつだって道のタンポポ負けてない
こんなところでくじけるものか
なくなったまた一からのスタートだ
ともに描こう「希望」のスケッチ

「空を見上げて」

山中 勉
(1年・随筆) → P26

東日本大震災で被災した中学生たちが、自分の思いを五・七・五の言葉に乗せることで心を開き、そこに日本や世界の人々から下の句が寄せられ、連句となって心と心がつながっていく。実際の出来事をもとに、言葉のもつ力について考えさせる作品。

「誰かの代わりに」

鷲田清一
(3年・論説) → P27

現代に生きる人々を苦しめている命題「自分にしかないものは何だろう」。人はそこから「こんな自分が、ここにいていいのだろうか」という切ない問いを感じてしまう。そこに示されるのは、筆者からの「誰かの代わりに」という言葉。卒業を迎える3年生へ、生き方を考えさせるメッセージ。

中学校という場所

「花曇りの向こう」(1年)

瀬尾まいこ
小説家

以前私は中学校で働いていた。そのとき、いつも感心させられていたのは、生徒たちが自分のいる場所でいろんな思いを抱えながらも前に進んでいたところだ。中学校には楽しいこともある、強制的なこともいくつかある。苦手な相手と協力しなくてはいけないことも、不得意なことに打ち込まないといけないこともある。それなのに、中学生は大人より逃げ出す手段が少ない。悪ぶってみたり、投げやりになってみたり、自分を抑えて相手に合わせてみたり。厄介な感情に振り回されてうまく行動できないことも多い年頃なのに、今いる場所で何とかしようとしている姿は、いじらしくも眩しくもあり、尊敬せずにはいられなかった。

ある学級を担任していた時、O君という生徒がやんちゃをしすぎた結果クラスから浮いてしまったことがあった。学級にも流れがあって、O君の豪快さがもてはやされていた時もあったのに、空気が変わりぽつんと浮いてしまったのだ。それなのに、運動神経がよかった彼は、その年の駅伝メンバーに選ばれてしまった。そのうえ、その年は陸上部員が少なく、駅伝選手六人のうち五人が私のクラスの生徒で構成されることとなった。大きなわだかまりができた仲間との駅伝練習は、傍目に見てもつらいものがあつた。でも、O君はばつの悪さを押し殺しながら、練習に参加し黙々と走った。他のメンバーもぎくしゃくした空気を何とかしようと苦心していた。彼らだけではない。同じクラスの生徒たちもみんなでこっそり練習して歌を贈り、メッセージを書いた色紙を渡しメンバーを盛り立てた。それぞれいろんな思いがあるはずなのに、仲間のために動いてしまうのが中学生だ。もちろん、すべてが解決したわけではない。しかし、無事にO君を含めたメンバーで駅伝大会に出場し、さらには府大会まで勝ち進むこともできた。



1974年大阪府生まれ。小説家。2005年「幸福な食卓」で吉川英治文学新人賞、08年「戸村飯店 青春100連発」で坪田譲治文学賞を受賞。主な著書に「卵の結」(新潮社)、「図書館の神様」(筑摩書房)など。

少し前に、その時のことを題材に本を書き、O君に送った。もう二十歳を越えたO君は早速読んでくれ、すぐに返事をくれた。あの時は本当につらかったけど、みんながあきらめずに引っ張ってくれてよかった。そのおかげで今があると思う。みんなに感謝してる。と。(中略)

中学生は同じ場にいる自分と同じ中学生を放っておけない。そして、今の状況をよくよくしたいという思いを誰もがどこかに持っている。中学校は、そんな生徒たちが集まった場なのだ。うまくいくことばかりではない。だけど、失敗しても大丈夫なのは事実だ。いつだって、中学校には次につながるきっかけが転がっている。何度見過ごしても、かすかな希望がまたやって来る。中学生に、今いるのがそういう場所だということを通してでも気づいてもらえたら。そんな思いをこめて、今回の話を書きました。

※ P25~27の文章は、学習指導書の「作者・筆者の言葉」に掲載予定の内容を抜粋したものです。

宇宙と国語が出会うとき

「空を見上げて」（二年）

山中 勉

宇宙航空システムエンジニア

私は、二〇〇一年から地球人の言葉や作品を宇宙に輝く星に打ち上げる計画を立て、世界中の人々と俳句や詩や宇宙図（宇宙のイメージをみんなで描いた図）を協創する活動を進めています。ところが、震災前に応募のあったいくつかの地域の学校は被災して連絡が途絶えてしまいました。何とか力になれないか考えていたとき、支援を求める新聞記事を見つけ、それをきっかけに女川での活動が始まりました。

教材ではたまたま震災のことに触れていますが、どんな状況にあっても一人の人間であること、地球人であることに変わりはなく、世界中の人と絆やつながりを確かめたい、という思いは誰もが変わずに持っているはず。女川の中学生が作ってくれた「被災者と 呼ばれ続けて もう三年」という句があります。被災地だからという理由で、その地域の生徒とつながろうと考えるのは少し違うんじゃないか。同じ人間として、地球人として、対等の立場で付き合ってほしいと言われている気がします。

生徒の俳句を国内外の人々に届け、連句の形にして星に打ち上げるのは世界初の試みですが、その中でも教材中の「みあげれば がれきの上に こいのぼり」の句に、こいのぼりになじみが薄い世界中の人々からも返歌がよせられました。かわいそうだからではなく、空を悠々と泳ぐ鯉に希望をみいだそうとするこの素晴らしさを、同じ人間として瞬間的に共有できたからではないでしょうか。言葉がもつ人間と人間をつなげる力の大きいなる可能性を感じます。

子どもの作品を見ると、学年とともに世界観が変わるのですが、中学生だと「自分が確かに存在している証」を、宇宙的なスケールで他者とつながる中で確かめようとする子が多いように感じます。宇宙に打ち上げる俳句や詩などを作ることは、教室という小宇宙を飛び超え、全宇宙とつながり、そのつながりの中で「私は何者か？」を考えるきっかけになります。だから、生徒一人ひとりが哲学者であり、詩人であり、研究者でもあるのです。

この教材を読み、星に届ける俳句や連句を作ろうと考える先生もいらつしやるかと思えます。その際、先生方には、生徒がもつ豊かな可能性を信じてほしい。生徒は「生徒」である以前に、この宇宙に生を受けた知的生命体であり、人類の一員であり、地球人です。生徒としてではなく、一人の人間として全作品をそのまま受け止めてほしいのです。

私は、宇宙に関わる仕事をしており、一見国語とは無関係です。しかし、この活動を通して子どもたちから教えてもらったことは、宇宙と国語が出会うとき、私たちは一人の人間に還ることができるということだったのです。



1958年東京都生まれ。宇宙航空システムエンジニア。JAXAの主幹研究員を経て、現在は（株）IHIに勤務。星に届ける作品創りを実践中。主な著書に「みあげれば がれきの上に こいのぼり…」(編著 遊行社)など。

〈代理〉と〈代替〉

「誰かの代わりに」（三年）

鷲田清一

哲学者

最近の生徒たちには、みずからをますます追いつめるような強迫が、じわりじわりつのってきているような気がしてなりません。（中略）

おそらく、自分がこのままで大丈夫なのか、不安なのだろうと思います。社会の先行きが見えない、これからもっとよくなりそうだととても思えないということもあって、このままでは身を支えきれない、棄てられるかもしれないという、根拠もはっきりしない怯えを突き離せないからでしょう。つまり、「できなくなったら終わり」という感覚です。「できなくても大丈夫」という感覚が持てないのです。

それは（教科書中の文章でも少しふれましたが）、「これをするのは別におまえでなくともいい」「おまえの代わりなんかいくらでもある」という「代わり」（これをわたしは《代替・可能性》と呼んでいます）ではなくて、それとはちょうど逆の「代わり」、つまり「あなたができないんだったら、きつと誰かが代わりにやってくれるよ」という

「代わり」（これは《代理・可能性》です）。国家や社会システムに委せ、また依存するのではなく、自分たちで支え合う、いつてみれば自前のセイフティ・ネットをきちんと用意しておくこと、これが本文中で「インターディペンデンス（支え合い）のネットワーク」と呼んだものです。

じつさい、一九九〇年代の前半、バブルの崩壊時以降に思春期を送ることになった世代には、こういう感覚がじわじわ浸透していて、UターンやIターンというかたちで地方を仕事と生活の地盤とする若者たちのグループがこれまたじわりじわり増えてきています。

わたしはこうした静かな動きになにか新しいまっとうな生き方の兆しを見えています。現代という時代、とくに3・11以後、わたしたちの日常生活の基盤がいかにわたしたち自身によって制御不可能なものであるかが露見してきました。電気というわたしたちに不可欠のエネルギーを供給する原発という装置がいったん事故を起こせば

まったくコントロール不能になること。わたしたちの労働環境から物価の変動、（食

の）安全性までを規定しているのが、グローバル経済という、だれも（経営者自身ですらも）コントロールできない投機的なゲーム（金融カジノ）に支配されているということ。このことの危うさを、敏感な二、三十代の人たちはすでに視野に入れて活動しはじめています。物流から経済、食材調達から仕事の連携まで、自分たちである程度コントロール可能な規模の仕組みに、暮らしの基盤を組み立てなおしていこうというわけですね。

このことの意味するところを生徒たちに伝えようと、この本文を草しました。



1949年京都府生まれ。哲学者。京都市立芸術大学学長。専攻は臨床哲学・倫理学。主な著書に『語りきれないこと 危機と傷みの哲学』（角川学芸出版）、「じぶん・この不思議な存在」（講談社）など。

平成二十八年年度版 デジタル教科書のご案内

— 新たな学びの可能性をサポート

コンテンツと機能を充実

平成二十八年年度版のデジタル教科書は、教科書の全ての教材を収録した完全準拠のソフトウェアです。

これまで全国でお使いいただいている「指導者用デジタル教科書」に加え、新版からは「学習者用デジタル教科書」の開発も進めています。

新しいデジタル教科書は、これまでご好評いただいている操作のしやすさに加え、先生や生徒によって、より使いやすく編集できるカスタマイズ機能を加え、新たな学びの可能性をご提案します。



◀指導者用デジタル教科書は、生徒の思考を教室全体で共有することができ、授業が活性化します。



▲学習者用デジタル教科書は、協働学習の場で生徒のコミュニケーションや思考をサポート。アクティブ・ラーニングのための力強いツールとなります。



指導者用デジタル教科書

「見える」授業で国語力アップ

クラス全員が同じ画面を見ながら授業が行えるので、教室に一体感が生まれます。また、本文や挿絵、写真を焦点化して表示できるので、学習のねらいが明確になり、生徒の集中力が高まります。

豊富な資料で理解が深まる

文学作品の背景、説明的文章の資料、話し合いの様子など、教材に即した映像、音声、写真等の資料を多数収録しています。生徒の興味・関心を高めたり、理解を深めたりすることができます。

シンプルな操作性

画面への書き込みや紙面拡大など、操作がシンプルでわかりやすく、パソコンに慣れていなくても直感的に使いこなせます。

学習者用デジタル教科書

一人一台の端末で多様な学び

学習者用デジタル教科書は、教科書の紙面や教材に関連した資料、ワーク等のコンテンツが一体となったものです。

指導者用デジタル教科書との連携や、教室での個別学習、グループで思考や表現を共有する協働学習、家庭学習など、さまざまなシーンで活用できます。

課題解決学習のツールとして

本文や画像の取り込み、試行錯誤の過程がたどれる学習履歴の保存など、デジタルならではの機能を生かした課題解決的な学習が可能になります。

こうした機能は、今後いっそう求められる生徒の主体的な学びを育てていくために、大きな役割を果たすと考えています。

これからのデジタル教科書

CoNETS の取り組み



これまで、デジタル教科書の操作性は、教科や教科書会社によって異なっていました。それを統一し、さまざまな端末で使えるマルチプラットフォームを開発するために、光村図書を含む教科書会社12社と株式会社日立ソリューションズからなるコンソーシアム「CoNETS（コネッツ）」が発足しました。

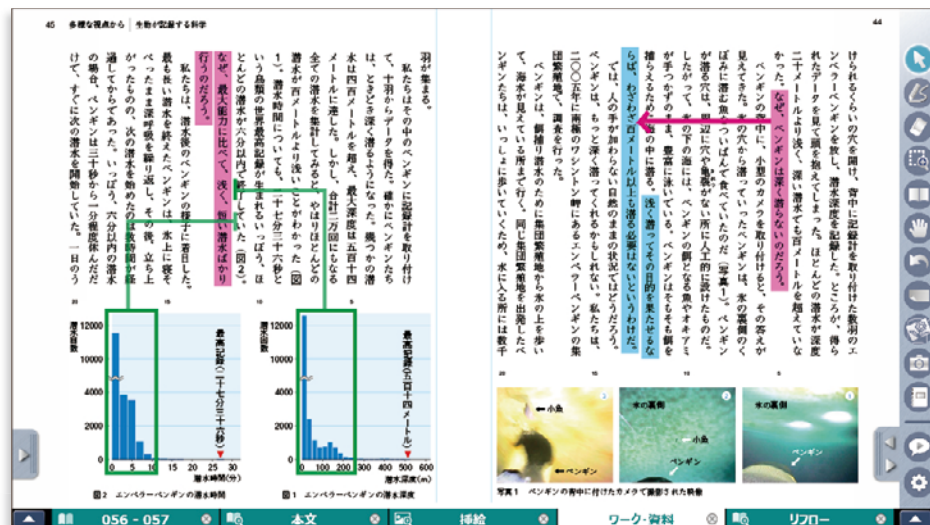
なお、CoNETSが開発するプラットフォームは、電子書籍の国際規格（EPUB3）に準拠しており、平成28年度版のデジタル教科書では以下のような特長が実現します。

- 1 教科を問わずひとつの仕組みで動作
- 2 オリジナルの教材が作成可能に
- 3 学習記録をデータで保存
- 4 学年・教科を超えた連携が可能に
- 5 ネットワークで先生と生徒の端末がつながる

CoNETSは、教科書づくりで培ったノウハウで、デジタル教科書の新たな可能性を形にし、これからも子どもたちの学びと教育現場をサポートしていきます。

CoNETSのウェブサイト www.conets.jp

▼指導者用デジタル教科書 画面イメージ



一生ものの、書く力。



—平成二十八年度版『中学書写』のご紹介—

新版から編集委員として『中学書写』に参画された甲斐利恵子先生とともに、新しい教科書の「お薦めポイント」をご紹介します。

『中学書写』
ここが
ポイント！

一、書写力が
ぐんぐん伸びる！



ポイント1 身につける力が明解。
しかも、応用が利く。

学習で身につける力を「目標」―「学習を振り返る」に明記し、「学習の窓」には汎用性のあるポイントを示しました。

書写のねらいは、お手本の文字をそっくりに書き写すことではなく、一つの文字を書くことを通して、文字全般の書き方、整え方を身につけることにあります。

ここでは「木立」を例にして、行書における「点画の方向や形の変化」を学びます。特に、終筆の筆使いや筆を進める方向が変化しやすいとわかっていれば、これ以外の文字を行書で書くときにも応用が利きます。

（甲斐）

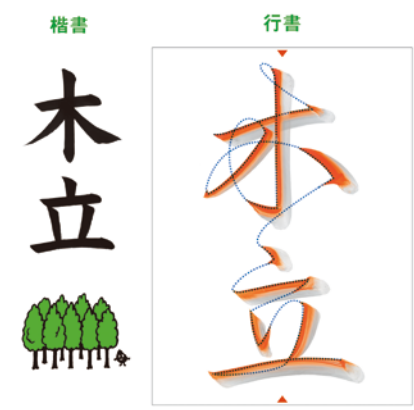
▼P26-27

1年生 点画の方向や形の変化



点画の方向や形の変化を理解して書く

- ① 楷書と比較し、点画の方向や形の違いを見つけよう。
- ② 線をなぞり、行書の点画の方向や形が楷書と異なる理由を考えよう。



【主な変化】

右払い	左払い	縦画	横画	点画	楷書との違い	行書との違い
ノ	㇏	丨	一	丶	楷書の点画は、点画の方向や形が一定である。	行書の点画は、点画の方向や形が変化することがある。
文	犬	因	未			

点画の方向や形の変化

・終筆の筆使いが、次の点画に移りやすいよう変化する。

・点画の方向が、次の点画に移りやすいよう変化する。

（甲斐）

毛筆で書こう。

木立

木立 天文 水分



27

ポイント3 「学びを支える言葉」で理解が深まる。

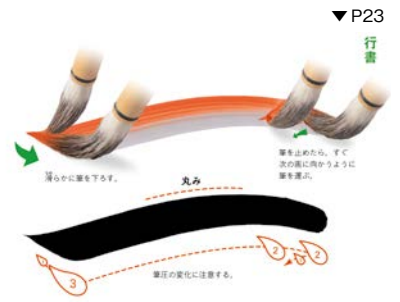
例えば「筆使い」や、「始筆・送筆・終筆」「筆圧」など、書写の学習用語を学ぶ場を積極的に設けました。

言葉はとても大事です。例えば、「伏線」という言葉を知っているかどうかで、文学の読み方自体、変わってきますよね。それと同じで、言葉があれば、それを観点にして自分の文字を客観的に分析・評価できるんです。課題がわかれば、自力で改善もできます。また、用語は先生方の指導語彙にもなります。ポイントを言葉で伝えられれば、闇雲に練習させるよりずっと効率よく上達します。「言葉」が技能の習得を支えるのです。

（甲斐）

ポイント2 「どうすれば」が目に見える。

文字の書き方や、書くときの筆の動きを、図や写真で視覚的に示しました。



▼P23

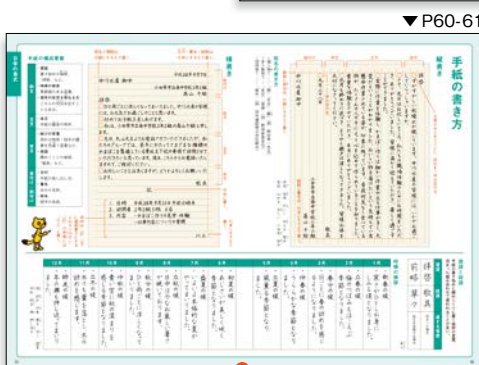
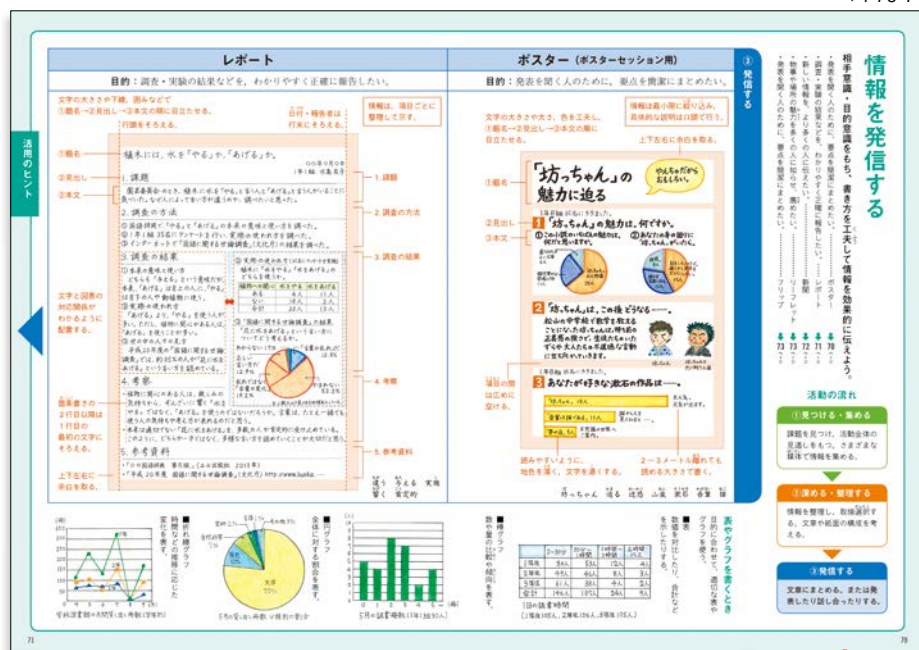
行書を書くときには、つながりの意識（筆脈）や、流れるような筆の動きが大切です。ただ、墨で書かれた「結果」だけ見ても「どうすれば」この線、この形が書けるのか、生徒には読み取れないんです。新版教科書では、書く過程の筆使いや穂先の動きを、朱墨や補助線、写真などで可視化しています。これなら生徒も、どうやって書いたのか再現できます。

（甲斐）

▼P10



▼ P70-71



ポイント
③
いつでも使える。
一生使える。

資料編を「日常の書式」「活用 of ヒント」「書写事典」に整理し、さらに充実させました。書写の授業はもちろん、他教科や国語にも役立つ資料が満載です。

学校生活の中で手紙やレポート、新聞などを書く機会はかなりあります。「日常の書式」「活用のヒント」には目的や相手に応じた文字の書き方が示されていて、とても便利です。また、「書写事典」の常用漢字一覧表(楷書・行書)や仮名の一覧は「今度」は行書で格好よく書いてみよう」なんて、生徒の発想自体、広がってきます。

「整った文字で書きたい」という思いは皆同じです。そのための具体的な手だてが、この一冊に詰まっています。

(甲斐)

国語で習った文章を流れるような行書で書けるなんて、うれしいですね。意味もわからない文章と比べたら、ずっとやる気も出るし、「言葉を書いている」ことをしみじみ実感できると思います。

（甲斐

例えば、「平家物語」の「鎬は海へ入りければ……」は、生徒たちが暗唱できるくらい読み込む一節です。「季節のしおり」もそうですが、

文字の素材として、国語で学ぶ名文や古典の一節を積極的に取り入れました。

ポイント
2 親しみのある文章を
美しく書ける喜び。

文字を書くのは身近なことで、普段は意識することはありません。でも、この詩と文字の表情にふれ、自分と文字との関わりを少しでも思い起こしてくれるといいなと思います。意識をもって向き合うときに「出会い」です。自分が言葉や文字と関係を築き、文字文化を受け継ぐ主体であることに気づける、新鮮な導入になりました。

(甲斐)

イン 1
文字を書くことの
価値を実感できる。

文字を書くことの価値に繰り返し気づけるよう、巻頭に「文字と出会う」を設けました。

▼卷頭



『中学書写』
ここが
ポイント！

二、国語とつながる。
一生使える。



▼ P48-49





先生も生徒も、わくわくしながら授業できる教科書。

港区立赤坂中学校主任教諭 甲斐利恵子

長く、中学校『国語』教科書の編集委員を務めてこられた甲斐利恵子先生。新版から、『中学書写』の編集委員としても活躍いただくことになりました。「自分と同じく、書写が専門ではない先生方の声も本作りに届けたい」とおっしゃる甲斐先生に、新しい教科書の魅力を伺いました。



——新版『中学書写』を手にしたときの、最初の印象はどうでしたか。

本当にいいものができたと思います。私はこれまで、「書写の教科書はお手本集だ」という先入観をもっていました。でも、新版教科書には身につける力がきちんと示されています。しかも、ページをめくるたびに、わくわくするような楽しさもありますね。これなら、書写を専門にしていない先生方も、安心して授業ができるはずです。

——先生方の安心感は、どこから来るの

ひと目でわかります。

また、特に見ていただきたいのが、原理・原則の説明のしかたです。私自身、「どうすれば整った文字が書けるか」を伝えるのに悪戦苦闘してきましたが、「こんなふうに表現すればいいのか」という言葉のヒントがちりばめられています。

——言葉のヒントですか。

はい。例えば、漢字の字形を整える観点の一つに「点や画の間」(P12)という言葉があります。こう言われると、「なるほど、字形を整えるためには、画の間の空間にまで注意するのか」と、はっきり意識できますよね。字形を整えるというゴールはわかっても、そのための留意点を伝えられず、もどかしい思いをする先生方もおられたと思います。私も一生懸命になればなるほど、「よく見て」「がんばって」「しっかり」なんて、根性論みたいな言葉しか出てこないこともあった(笑)。でも、ひと言「間」と言ったほうが生徒にもピンとくるし、それはや

る気にも直結すると思うんです。

——ちゃんと理解できることが、学習意欲に直結するということですね。

はい。「どうすればできるか」わからないままがんばるのは苦しいし、長続きしませんよね。たまたまうまく書いても充実感はないし、次にもつながりません。スポーツと同じで、「これができたからうまく書けた」「書けなかったのは、これができなかったからだ」と、自分を客観視できるかどうかのポイントです。

——次につながるポイントとして、新版では全教材に「学習の窓」を置きました。

国語教科書でも好評ですが、今回、書写にも位置づけました。国語での説明文の学習は、文章を理解するだけではなく、その経験を通して説明文全般の読み方を身につけることがねらいですが、これは書写も同じです。教科書に示された「緑」や「木立」という文字を美しく書くことではなく、それを通して整った文字が書けるようになることがねらいなんです。

光村の教科書には、「どうすれば」が目に見える形で示されています。



でしょう。

書写のねらいは、教科書に示された文字を上手に書けるようにすることではなく、「どうすれば整った文字が書けるか」という方法を知ることです。多くの先生方はそのことを理解されているし、そんな授業を目ざしています。ただ、「どうすれば」をうまく伝えられなくて悩まれているのではないのでしょうか。新しい教科書には、その「どうすれば」が目に見える形で示されています。

——「どうすれば」が目に見えると感じるのは、どんなところですか。

まず、どのページを開いても、右ページに原理・原則、左ページに教材文字という構成になっています。「何に気をつければいいのか」を最初に「理解」して、その上で実際に書くという学習の流れが、

「学習の窓」には、それを実現するための汎用性のあるポイントがわかりやすく示されています。

——生徒たちに、楽しく力をつけてもらえることを願っています。

生徒が楽しいと感じるのは、驚きや発見に出会う瞬間です。実は私自身も、教科書を開いて「へえっ」と思うことがたくさんありました。文字を整えて書く方法もそうですが、「文字の歴史を探る」(P20・21)など、文字文化にまつわるコラムも発見に満ちています。私たちのすぐそばに、こんなに魅力的な世界が広がっているなんて、わくわくしますよね。

生徒の「やる気スイッチ」をオンにする仕掛けが教科書の随所にあって、今から授業が楽しみです。



中学校教科書「国語」「書写」「美術」「英語」の平成28年度版の内容をご紹介します。コンテンツを、ウェブサイトにアップします（4月下旬公開予定）。

教科書の魅力をコンパクトにまとめた動画などを用意し、短い時間で内容がご理解いただけるよう工夫しました。ぜひご覧ください。

紹介動画

見るだけで、新版教科書の内容が丸ごとわかります。映像とナレーションで、特色をご紹介します。



「国語」の動画



「書写」の動画

平成28年度版 中学校教科書のご案内
めくるたびに、未来がひらいていく。

光村図書
平成28年度版
中学校教科書のご案内

ホーム

- 国語
- 書写
- 美術
- 英語

ダウンロード資料

デジタル教科書・デジタル教材のご案内

すべての子どもたちが学びやすい教科書

NEWS 2016.04.10 ダウンロード資料（「年間指導計画資料（一次版）」）をアップしました。

ダウンロード資料

国語	書写	美術	英語
● 編集の趣旨と特色	● 編集の趣旨と特色	● 編集の趣旨と特色	● 編集の趣旨と特色
● 単元系統一覧表	● 単元系統一覧表	● 単元系統一覧表	● 単元系統一覧表
● 観点別 内容と特色	● 観点別 内容と特色	● 観点別 内容と特色	● 観点別 内容と特色
● 教科書をどう考え、どう編集したか	● 学習指導要領との対照表	● 学習内容の系統表	● 教科書をどう考え、どう編集したか
● 年間指導計画資料	● 構成と指導の系統一覧表	● 教科書をどう考え、どう編集したか	● 年間指導計画資料
● 出典一覧	● 教科書をどう考え、どう編集したか	● 年間指導計画資料	● 教科書をどう考え、どう編集したか
● 紹介図書一覧	● 年間指導計画資料	● 教科情報誌	● 年間指導計画資料
● 教科情報誌	● 教科情報誌		

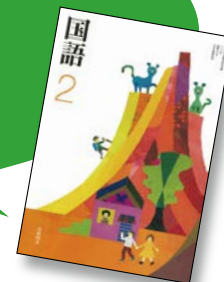
紹介ページ

ここから、新版教科書の特長を詳しく解説したページに進むことができます。

豊富なダウンロード資料

年間指導計画資料、「国語」の紹介図書一覧など、ダウンロードしてすぐに活用できる新版教科書用の資料をご用意しています。

中2国語教科書（光村図書）に載っている
「アイスプラネット」が
1冊の本になりました！



ぼくは、原島悠太。中学2年生。
家には、いそろううしている
38歳の「ぐうちゃん」がいる。
ぐうたらしているけど、
ぼくはぐうちゃんが好きだ。
なぜなら、世界のあちこちで体験した話を、
いろいろ聞かせてくれるから。
ぐうちゃんの話は、信じられないような
「ほら話」ばかりだけど、
とにかくおもしろいんだ――。



椎名 誠

アイスプラネット
ICEPLANET

ぐうちゃんの「ほら話」の数々

アナコンダが
馬を呑み込むの
を見た!?

梅雨や台風は
「うらやましい」
もの

体重0.5トンの男

7本足の
生き物がいる!?

地球の中にある
「水の惑星」

おやつに
幼虫を食べる
人たち

…など



定価：本体1,200円(税別)
ISBN 978-4-06-218233-1

めくるたび、未来がひらいていく。

www.mitsumura-tosho.co.jp/28ckyokasho